



2020年12月26日(土)～2021年1月2日(土)

**2020年度
海外ボランティア参加者募集**

2021年3月10日(水)～3月17日(水)

派遣地 カンボジア王国 シムリアップ州 シムリアップ市 ポー村
 宿泊先 BICC(ボスコ国際文化センター)2階Bosco House
 派遣内容 カンボジアの子ども達との交流、BSS(日曜学校)や公立学校での情操教育分野や衛生面の授業

社会人コース 名称:カンボジア・ボランティア

派遣日程 2020年12月26日(土)～2021年1月2日(土)6泊8日(1泊は機中泊)
 対象者 教員経験のある方、若しくは、子どもの教育に関心のある成人男女6～8名
 参加条件 協調性、異文化への尊敬の念と柔軟性、主体性、臨機応変さを備えていること
 事前研修に参加。帰国後は、地域や職場において経験を活かした活動を行うこと
 参加費用 150,000円(航空券・海外保険加入費以外。参加者が決定次第、各自で購入する。)
 問合せ・申込み 7月17日(金)までにシスター牧山:fumi.ma213@gmail.com または、03-3906-0170(代)
 新型コロナウイルスの影響や希望者数等を判断要素として、その後実施可否を決定する

青年コース 名称:カンボジア・スタディー・ツアー

派遣日程 2021年3月10日(水)～17日(水)6泊8日(1泊は機中泊)
 対象者 18歳(高校卒業後)より 男女6～8名
 参加条件 ボランティア意識、協調性、健康、英語力(中学生程度)を備えていること
 事前研修会に参加(第一回研修会2020年11月15日(日)は必須。12月、1月、2月に月2回)
 参加費用 200,000円(航空券、海外保険加入費、世界遺産アンコールワット遺跡観光を含む)
 問合せ・申込み 11月15日(日)までにシスター稲川:videsjp@gmail.comまたは、TEL/FAX03-3906-0070

※詳細は、問合せ・申込のあった方に送付いたします。

※日程や費用に関しては、状況により変更の可能性もあるのでご了承ください。

VIDES JAPAN 14 活動内容

海外ボランティア

アジアの子供達との交流。
カンボジアの子供達と学生達に技術指導。



VIDES PR

ホームページ、フェイスブックを活用し、VIDESの広報、活動を発信。会員への情報の提供。

VIDES マイン

各種事情時の宿泊、生活スペースの提供ボランティア。自立を目指す青年たちの体験学習支援活動。ハッピーハウスにおける子供達との食事、会話を通してのコミュニケーション。

VIDES カルチャー

個人の隠れた才能の開発促進援助と文化交流提供。
「聖書を学ぶ会」、
「グローバルシナズンを目指して」を随時開催。講師を招いて行う。

VIDES 学資援助

アジアの貧しい子供達の学資援助。
●カンボジア/ボスコ・サンデースクール(BSS)小学生 ¥30,000(年間)支援。
●カンボジア/ボスコ・ベーカーズスクール(BBS)専門学生 ¥60,000(年間)支援。

フリーマーケット

アジアの貧しい子供達への援助。
年間5～6回、赤羽公園、教会バザーにて実施。物品仕分け・整理、運搬、販売。随時。



海外物資援助

アジアの貧しい子供達に衣類、学用品、その他物資援助。



リストランテ VIDES

VIDESの紹介と活動資金調達
●毎月1回 第2水曜日(但し、7・8・9月除く)年間9回、「バストラルセンター」にてイタリアンパスタのレストランを運営
●調理、デリバリー、会場準備設置、洗い場、片付け



VIDES 山中サレジオ山荘

富士山の麓、山中湖山麓に建つVIDES山中サレジオ山荘。
4～10月オープン。毎年1月1日受付開始。
自然の中で人間性と人生観を深める様々な体験の場を提供。
EX)黙想会、コーラスグループ合宿、イタリア料理講習会。

VIDES ショップ

青少年の心身の育成のため、2010年4月より星美学園内で軽食と語らいの場を提供。

フレンドシップ

児童養護施設「星美ホーム」の子供とのスキンシップ。2～5才児との遊び。
日曜日、随時。子供と一緒に遠足など。

ランチショップ

アジアの貧しい子供達への援助。
第1・3・4木曜日、午前9時30分から。各種お弁当を「バストラルセンター」にて調理、短大にて販売。

VIDES 祈りの会

毎月1回、VIDESの活動を祈りによって支え、世界平和と人々の幸福を願って祈る会。
修学院聖堂にて実施。
祈りと共にソング!...
売り上げで活動資金調達

VIDES アカデミー

若者の個性、特技(音楽、美術作品、絵画等)発表の場を提供。
「ボスコ劇団」2016年度設立



VIDES NEWS

VIDES日本管区 事務局 VIDES NEWS vol.40 2020年4月発行





VIDES Internazionale (国際VIDES)の代表者 Sr. Annecie Audate 訪日

2020年2月12日～17日

VIDES JAPANが誕生して26年の年月が経過しました。その間、ローマ本部からは、VIDES創始者のSr. Maria Grazia Caputoが来日され講演をしていただきました。そして、今年初めて本部主催のセミナーを開催する運びとなりました。Sr. Annecielは、明快な示唆とパワーを与えてくださいました。神様の慈しみ深いご計画の中で、私たちは、VIDESの精神を日本の現状に適応して活動してきたと確信できたと同時に、これからも、この地球に住む“グローバル市民”の一人として人々と共感・連帯して生きていく壮大なプロジェクトを、青少年と共に、日常生活の中で身近な人に手を

Sr. Annecieの行程

12日(水)
成田到着→赤羽の聖マリア修道院へ→午後、大阪へ
18:00 城星学園教職員希望者との集い
13日(木)
文化体験—京都見学—
17:30～20:00 ハッピー・ハウス訪問
14日(金)
16:00～20:00「VIDES青年との集い」
15日(土)
10:30～18:00「VIDESが提案する青年のための教育内容を深めたいシスターの集い」

16日(日)
10:00～18:00「VIDES JAPANセミナー」
～複雑な社会の中で生きる
VIDESボランティアとしてのアイデンティティー～
17日(月)
青年たちと東京見物
☆原宿☆調布:チマツチ資料館、
サレジアン・シスターズ管区本部訪問
22:00 成田発ローマへ出発

12日(水)

早朝、フィリピンから成田空港に到着。昼食は、この日行われていた「リストランテVIDES」の皆様との心こもった美味しいパスタやピザ等を召し上がり、すぐに会員たちと親しく会話を交わされた。

《大人が手本になれない時代に》

Ristorante videsにサプライズでいらしゃったSr. Anneciel! シニア活動の一つ、Ristorante videsが、VIDES広報と資金調達



の目的、そしてシニアが活動する姿を通して若い人達へメッセージを送ることができることなどを、厨房の中で簡単に説明いたしました。「VIDESシニアありがとう」を何度もおっしゃり、テーブルを囲んで美味しいイタリアンをデザートまでしっかり堪能してくださいました。

かつてVIDES活動のひとつだった「様々な理由で家庭から離れて自立を目的に集団生活する青少年福祉センター」での15歳から25歳くらいの社会人男子たちへの夕食ボランティアで、また、国際ボランティア・カンボジア・ドンボスコ・スクールテクニカルセンターの16歳から23歳の女子学生への調理技能&栄養学&テーブルマナー教育ボランティア活動の現場で、全く同じ疑問を若い人たちから投げかけられました。

『給料が発生しないのに、なぜあなたは自分の時間を割いて、ここへ来て私達に心から接してくれるのか?』心から接することを社会的・国際的に貧しい彼らは疑問に感じていました。

それは今まで彼らが生まれてから体験したことなかったことだったから。教育はその字の如く教える育



ること。教えることは知識となり、育つ過程で様々な知恵が育っていきます。

また、Sr. Annecielがセミナーにおいて準備されたパワーポイント内にも「現場の人々の現実と向き合うこと」が強調されていました。どんな状態の人にも人権があり、人生の主人公であるはず。言葉でなく行動が人の心を動かします。またその行動を見ている次世代の考察に繋がります。できれば一緒に活動することが望ましい姿です。

若い世代が自分の人生の意味を考え、自分を尊重することにより同じように他者の人生を大切に思い、現代の行き過ぎた個人主義の流れの中で、自己改革を進めていけることを心から願っています。

VIDESシニア Ristorante vides責任者 中川 摩夜

大阪の姉妹校、城星学園では、大阪VIDESが存在した頃に活動していた教員、昨年度12月に実施したカンボジア・ボランティアに参加した4人の教員、卒業生やSalesiani Cooperatori等、VIDESに関心の



ある方が10名、Sr.田口院長様のご臨席のもと集った。初めに、カンボジア・ボランティア参加者の報告を行い、Sr. Annecielは一人一人の感想に興味深く耳を傾けてくださった。その後、国際VIDESの活動やボランティア精神について動画を使って話さ

差し出す生き方を選ぶことを通して実現する決意を新たにしました。研修のための動画やパワーポイントなどすべての資料は英語とイタリア語。訪日までの約1か月、英語はユースのメンバーが手分けして翻訳してくれました。若者のパワーを感じた研修でした。イタリア語は数名のシスターの絶大なるご協力のおかげ。このような影の力に支えられた、実のある研修会となりました。Sr. Annecielは、中南米ハイチ共和国の出身で、世界中のVIDESの第3代目代表者としてローマに在住。

れ、分かち合いもできた。ボランティアは、単なる活動ではなく生き方のスタイルなので、誰とでも共に生きること＝“互いに愛し合うこと”を幼少期から家庭や学校などで、まず大人が生きていることがボランティア教育の原点であるということ、そして、一人一人はそれぞれ“大海の一滴”として大事な存在だという内容だった。

13日(木)

初めての日本訪問!短時間だが古都、京都を堪能していただき、京都巡りのプロである望洋庵の青年にガイドをお願いした。三十三間堂で、国宝である圧巻の千体千手観音立像とご対面。清水寺、京都らしい町並みが続く二寧坂を歩いて八坂神社へ。最後は、京都カテドラルのカトリック河原町教会へ。地下聖堂に安置している「都の聖母」像前で共に祈った。



午後、東京に戻り、ハッピーハウスへ。Sr. Annecielを歓迎して、マカロンを一生懸命作っていたり、頑張って英語で自己紹介をしたりする子ども達やスタッフを優しく見つめておられた。遊びおしゃべり、食事準備と夕食、そして、子ども達が帰った後のスタッフの振り返りまですべて一緒にしてくださった。

「あなたは私の姉妹」

私の目を見てホッホッホ～と笑いながらSr. Annecielはそう言ってくださいました。この言葉と屈託ない笑顔。もうこれだけで初めてお会いしたSr. Annecielとの心の距離が無くなり、さっきまでの緊張はどこへやら、出来るだけ多くハッピーハウスの活動内容を伝えようと話し出した私に、ずっと耳を傾け聞いてくださいました。

私からお話した事は、ハッピーハウスの活動を始めたきっかけとなった、1人の男子中学生の事、そして今、子どもたちと関わる中で何が1番大切で必要なかを私なりにお伝えしました。「子どもたちはきっと正しい答えが欲しいのではなく、話したい時に話せて、悩んでいる時に受けとめてくれる時間を、そして何より自分の存在を認めてくれる大人が必要」とお話しす

ると、Sr. Annecielご自身が今まで関わってきた子どもたちにも同じ事が言えるとおっしゃいました。

この機会に、支援をいただいているNPO法人せいぼのデ克蘭さんも来てくださいました

世界中の子どもたちと手を繋いで生きていく歩みと、ハッピーハウスの歩みが重なり、大きな力を頂けました。次回お会いできる日も一緒に笑い合いたと思います。

VIDESシニア 山田 裕子

14日(金)

「VIDES青年との集い」開催。ジュニア(中1～高3)とYouth Porta、ハッピーハウスのスタッフ、カンボジアの海外ボランティアに参加した若者たちの代表、修学院の若者たち等、総勢22人ほどが集った。森下管区長様とシスター方も数名参加。

この集いの企画・進行は、Youth Portaのメンバーが話し合いを重ねて準備してきた。アイスブレ



イク後、パワーポイントを使って英語で活動報告。そして、Sr. Annecielから、他国のVIDESの活動の様子や短編動画を見せていただき、VIDESとは何か、ボランティアの心とは?などについて考えた。突然会場を歩き回り意見を求めてマイクを向けてくるアクティブな方だった。

各自の活動は小さな事だが、VIDES Internazionaleの

Sr. Annecielに出会って、私たちの近くにずっと降りてきてくださる方だなと感じました。私たちの活動報告にも真剣に耳を傾けて下さり、私たちからの質問にも十二分に答えてくれるような方でVIDESに対する熱心さが伝わりました。そして、私たちもそれに呼応し、自然といつも以上にVIDESに心を向けられるそんな青年の集いだったのではないかと思います。

今までは日々の生活をしながら時にはVIDESの活動もして…といった考え方でしたが、Sr. Annecielと出会って、日々の生活の中に常にVIDES会員としての行動があるのだと知りました。Sr. Annecielが度々仰っていたように「生き方の中でVIDES会員として行動できる」ように日々過ごしたいと思います。

VIDES Youth Portaリーダー 飯田 美和



一員であることを意識でき、自分たちが行っていることの意味を見出し、希望と期待をもって進む力を与えられた喜びに満ち溢れていた。

15日(土)

この日は、シスター対象の一日研修。遠くは浜松や山中から約60人のシスター集合!

VIDESは、青少年の心の叫びに耳を傾け応えようとするサレジアン・シスターズの歩みの中で生まれた、青年のためのボランティア団体であること、そして、現代世界はVIDESの精神で連帯して生きる人を望んでいるということを学び、今こそ、サレジアン・シスターズ各自がいただいた神様からの“召命”に応え、若者と共に若者のために連帯して生き、関わり、よりよい世界を築いていく好機であると感じさせられた有意義な集会だった。



16日(日)

会員向け「VIDES JAPANセミナー」開催。東京と静岡のシニアメンバーからジュニアメンバーまでの希望者約40名が参加した。



主日のミサで開始。司式はサレジオ会の佐藤神父様。セミナーでは、まず、英語でVIDES JAPANの活動報告、メンバー紹介。その後、「複雑

な社会の中で生きるVIDESボランティアとしてのアイデンティティー」というテーマで、動画を交えながら話をしてくださった。

午後は、5グループに分かれて、“若者自身が認識している世界の現状報告”を読み、日本の若者の現状と比較照合し、その若者が、または、若者と共に私たちVIDESには何ができるのかという点を話し合

VIDESセミナーに参加させていただき感じたことは、同じボランティアをするにも一方的な押し付けは無意味に等しく、私たち一人一人が意識を持って人と接し、話を聞き、共有し、共に考えたうえで行動を起こすことが大切なのだと改めて思いました。このような貴重なセミナーに参加できたことはとても有意義であり、セミナーにて話し合い、学んだことを生活の中に活かしていこうと思いました。話し合いの後、Sr. Annecieと握手をさせていただきましたが、シスターの手はとても大きく温かかったです。

VIDESミドル 橋本 英子

Sr. Annecie Audate 訪日

セミナーでは、資料を読みながら「若者や子ども達のためにVIDESはどうあるべきか」や「日本で緊急性を持って取り組むべきものは何か」など、様々な問いを立て、各々の経験をもとにグループで話し合いながら答えを出していきました。また、海外のVIDESメンバーの動画を見て、国は違えど彼らと同じ志を持っていることを知りました。これらの研修から私は、自分も国際VIDESに所属する一員なのだということを強く再認識することができました。この研修で得たことを忘れずにこれからの活動に励みたいと思います。

VIDES ジュニア 星美学園高等学校3年 須藤 愛美香

い発表した。Annecieはマイクを持って歩き回り、「共感って何?」などと質問を投げかけてくるので、みんな緊張しつつも自分の考えをしっかりと持つようにと促されているような充実したセミナーだった。

最後には、総長様Sr.イヴォンヌ・ランゴアのVIDES会員への熱烈なメッセージを動画で見て燃やされた。



17日(月)

すべての研修会を終え、最終日は、青年4人と“東京ツアー”。現代の日本の若者が好んで行く「原宿」の竹下通りにご案内!巡り方やお店のチョイスも青年たちにお任せした。

今、100均は海外からのお客様に人気らしい。「見るだけでいいわ」と言っていたSr. Annecieも、台所用品の陳列棚の前に来るとふと立ち止まって、ピーラーを手に!実は、お料理大好きで、よく青年たちにふるまうそうだ。



調布のチマツチ資料館へ。コンプリ神父様が歓待してくださった。管区本部で多くの姉妹たちと出会い、歴史資料室を見て、夕方には成田空港へ向かった。

Sr. Annecieが携えてきてくださった研修内容は、これから、私たちがよく消化し、活動の原点・力の元として活かしていく貴重なお土産となった。

Sr. Annecie、喜びと情熱をありがとう

Sr. Annecie のご訪問を受けて 山田 真人

VIDES JAPANは、Sr. Annecieを、14活動の一環であるハッピーハウスでお迎えし、子供たちとの時間を



を過ごして頂きました。子供たちは、国籍の問題や、日本の教育、家庭での問題などを抱えていることもあり、日本の現状、課題について、感じて頂けたと思います。

また、セミナーでは、世代を超えて、どのように協力し合い、国際ボランティアとして持つべきアイデアを、どのように具現化していくべきかについて、ヒントを頂きました。内容として、2018年に開催された若者のシノドスの内容も含んでおり、現代の

教会全体が意識している課題と関連させ、私たちVIDESの役割を考えることに繋がりました。

私は、通訳として働かせて頂きましたが、その中で最も印象的だったのは、“Sympathy”と“Empathy”の違いについてのセミナーでした。

“Sympathy”は、人々とただ同じ気持ちになろうとする一時的な感情ですが、“Empathy”は、人々の中に入り、その人に変革を与え、さらに対象の人を独立させ、発展させる力があるという定義でした。現場の人々との対話を通して、人々に入り込み、持続的に彼らが自ら発展ができるように変革を与えるという姿勢は、国際ボランティアとして重要な姿勢だと思いました。この体験を生かし、VIDES JAPANが国際ボランティアとして成長していけるためのステップとしていければと思います。

Sr. Annecie の訪日のすべての活動に参加して 石橋 千佳



の力になることができれば良いと思いました。

私は、人見知りする傾向があるけれど、このセミナーで司会や活動紹介を担当したり、ミサで答唱詩編を独唱したりしました。これまでの自分なら「出来ない」と言い、逃げていたと思います。しかし、シスターや先輩、大人が「やってみない?」と声を掛けてくれたことを受け止め実践してみたことによって、この1年間のVIDESへの思いを形にすることが出来と思います。このように、VIDESは一人ひとりの可能性も広げてくれると思います。

今回、Sr. Annecieの話や写真から世界のVIDESの様子を知ることが出来ました。住んでいる場所、言語、国籍は違っても、皆、VIDESメンバーとして誇りを持っていると言うことが分かり、とても嬉しくなりました。また、子どもたちは、ゴミ拾いをしたり、友達の問題を助けたりと、喜びを持って困っている人々に手を差し伸べていることを知りました。

VIDESの活動以外にも、日常生活から自分にできることを進んでしていきたいと改めて考えることが出来ました。「誰かのために自分が存在していること」に感謝し、これからも1人のVIDES会員として様々な活動に励んでいきたいです。

セミナー終了後にVIDES JAPANがいただいた認定証を見た時には感動して涙が出そうでした。今後、日本の活動の様子をVIDESインターナショナルのメンバーにも知らせ、私たちももっと世界のVIDESの様子を知りたいので、情報共有を密にしたいです。将来、世界のVIDESメンバーに会えることを楽しみにしています!

サレジアン・シスターズ総長 Sr.イヴォンヌ・ランゴア来日

2019年10月7日～16日



サレジアン・シスターズ来日90周年を記念して、ローマ本部からサレジアン・シスターズの総長マードレ・イヴォンヌ・ランゴアが来日されました。九州から関東の各地を回りながら、シスターたちやサレジアン・ファミリー、多くの若者たちと出会われました。一人ひとりを温かく包み込むあの人柄と微笑み、そして出会った方々一人ひとりを祝福し励ましていらっしゃる姿は、まさにマードレ(お母さん)の姿でした。

10月14日に、調布教会でマードレ・イヴォンヌをお迎えして、サレジオ家族の集いが行われました。その中でドン・ボスコの精神で、特に助けを必要としている若者や子ども達のために活動している4グループの活動紹介があり、VIDESからは「ハッピーハウス」の活動を紹介しました。マードレをはじめ、多くの方々からこの活動に関心を寄せていただき、



励ましをいただきました。

またローマに帰国される前、サプライズでVIDES YOUTH PORTAのメンバーからマードレにハンドメイドのハーバリウムペンがプレゼントされ、大変喜ばれていました。マードレとの出会いによって、私たちもサレジアンのメンバーであることの喜びをより強く感じるひとときとなりました。

Sr.フィリス・ネーヴェス来日!! ハッピーハウスやVIDES YOUTH PORTAの活動訪問

2019年9月4日～11月20日



ローマ本部より日本の視察担当評議員として、Sr.フィリスが来日されました。約2か月半、日本各地のサレジアン・シスターズが活動している場を訪問されながら、教育・福祉・教会活動・ボランティア活動などを視察されました。

10月24日、「ハッピーハウス」を訪問され、子どもたちや大学生やシニアスタッフと共に夕食づくりを一緒にし、談笑したりして楽しいひと時を過ごしました。Sr.フィリスは、「ここはみんな自分の家に帰っ

てきたみたいに過ごしていて、本当に家族のようです。」と子どもたちや若者、また大人においてもみんなの居場所になっていることをよく理解してくださいました。

27日には、YOUTH PORTAが活動していた赤羽駅近くの商業施設での「スマイルフェスタ」に顔を出して下さいました。メンバーが作製したハーバリウムペンを差し上げると、とても喜ばれました。Sr.フィリス、ご訪問ありがとうございました!



ピンポーン♪ 「ただいまー」、「おかえり〜」



子どもたちは自分の家に帰ってきたようにハッピーハウスにやってきます。小学生や中学生は高校生や大学生スタッフから勉強を見てもらったり、遊んだり、おしゃべりしたり…。シスターやシニアスタッフは食事作りをしながら、一緒に楽しいひとときを過ごしています。

子どもたちや若者たち、そして親たちも安心して自分のことを話せる場所、家族のような関わりの中でありのままでいられる居場所。これがハッピーハウスです!

大迫心

何でも話せる場だと感じています。悩み事がある時、気分が落ち込んでいる時、私が真っ先に向かうのがハッピーハウスです。到着すると、暖かいお茶を入れてくれる。すると、私はつい思っている事を零してしまうのです。子どもたちも、きっと同じように感じているのではないのでしょうか。

また、現在ハッピーハウスの男性スタッフはわずかしかいません。子どもたちの兄代わりになる事、全力で遊び相手になることは、男性にしかできない役割です。もし男性で興味がある方がいらっしゃれば、一度遊びに来て頂けると嬉しいです。(もちろん女性も大歓迎)



赤羽×星美クリスマスフェスティバル2019

2019年12月22日、VIDESは、「第2回赤羽×星美クリスマスフェスティバル」に出店しました。2018年に続き、2回目となるこのフェスタは、赤羽の地域共同体との繋がりを深め、赤羽台の修道会の活動を、さらに多くの人々との交流を通して、広げていくことが狙いとなっております。

VIDESも、国際ボランティア団体として、その活動を、国内で幅広く行い、社会に開かれた活動を実施するミッションを持っています。

そんな中で、VIDESとしてフリーマーケット、カレーの提供などを通して、寒い外で

の開催の中、多くの人びとに、温かいひと時を提供できたと思います。

また、多くの青年ボランティアも参加し、地域の人びととの交流の経験、自ら準備した商品の販売により寄付を頂き、活動の紹介をすることで、やりがいを感じることができたと思います。

今後も、若いメンバーの成長、社会との関わりを通して、さらに活動の幅を広げていければと思います。





カンボジア・ボランティア

2019年12月26日～
2020年1月2日

今年は、例年になく関東と関西から8名というたくさんの参加者、さらに、初の神父様同行というグループ構成で、授業も分かち合いもバラエティーに富んだ有意義な体験となりました。チャペルでは、初のごミサを捧げました！今年も目黒星美

学園小学校の子ども達からのプレゼント“愛のポシェット”と文具や日用品等をいっぱい詰めて持っていました。周辺には、まだまだ貧しい村が点在しています。初めて訪れた Peak Sneng Villageでは、農業による生計自立を支援しているレイさんと素朴で生き生きした人々と出会いました。ボランティアの原点に戻る体験、支援の新たな課題など私たちの日常にはないことを、みんなでいっぱい感じ考えた日々でした。帰国後も振り返りの集いや食事会をする素敵な仲間達です。

佐藤 直樹神父 [サレジオ会]



初めてのカンボジア…空港から乗り合いバイクタクシー（トゥクトゥク）に乗りシュムリアップの街並みを通る…「意外に近代化している…この街並みの何処に貧困があるの？」と言うのが率直な印象！

次の日から郊外の公立学校に行く…服装の違い、物を持っている子と持っていない子、校内でおやつを食べられる子と食べていない子の格差に気づかされる。

シュムリアップから35km離れたフィリピン人のレイモンドさんが15年に渡って指導する貧しい村に行く…村人に40年間のローンを組ませて家屋を建てる、畑を耕作し作物を作る。それを町の市場で売る。利益を得る。私たちのごく普通の経済生活の営みを通して自立支援をしている意図を知る。そこの子ども達に文房具を配ると鉛筆削りや歯ブラシを見て使用方法が分からず立ち尽くしている。



美味しいパンは、私たちが訪問した時にしか食べられない。なるほど、この国の様々な現状を垣間見、貧困を目の当たりにさせられた。

だが滞在中、私たちの身近でお世話をしてくれた少女にこそ支援が求められる最たる隣人だった事が一番の衝撃であり、本気で今、すぐに何が出来るかに駆られた旅だった。

井上 美沙 [看護師]



今回の旅で一番印象に残った事は、子供たちの様々な表情です。キラキラした笑顔、私たちが行う授業へ真剣に取り組む眼差し、幼い兄弟を面倒みる優しい目、観光客相手にお金をもらおうと必死な目…様々な表情を見

せる子供たちの姿に、嬉しい気持ちになる事もあれば、切なくなる事もありました。この子供たちの現状を知り、未来を考える中で、子供たちがずっと笑顔でいる為に私には何が出来るのかを今考えています。



答えは出ていないけれど、まずは周りの人に私が見たカンボジアを伝える事から始めてみようと思います。このような貴重な経験をする機会を与えて下さり、本当にどうもありがとうございました。

佐々木 麻実 [星美学園卒業生、会社員]

教員でない私が縁あって推薦して頂き、参加する事になりました。

実は、私、子供が苦手(初告白)。不安を抱えつつ初日の授業を行うべくポー村の小学校へ。屈託のない笑顔と、分け隔てなく飛び込んできてハイタッチをしてくる子供達に不安は一気に消えました。



授業は、思う様に進まず苦労したりする事もありましたが、伝えようとする気持ちと、吸収しようと目をキラキラさせて聞く子供達と通じ合い楽しい授業となりました。



そして、急遽行く事になった貧しい村での経験は本当に貴重で、まだまだ開拓し、やらなければならない活動は多くあると心から感じました。これからも連携を取り、より良いものにしていけたらと心から願います。

最後に今回の貴重な体験と、同行した仲間との出会いを与えて下さったVIDESに感謝致します。

野口 愛未 [城星学園小学校教諭]

この旅を通して私は何に出会うのだろうか、胸を躍らせながらカンボジア・シュムリアップに足をふみいれた12月26日。それからの8日間、日本とは違う景色、人、多くの出会いを経験してきました。

帰国して少し経った今、最も強く心に残っていることは、日曜学校から子どもたちを家へ送っていく道中の町並みです。弱々しい壁や屋根を携えた家、赤土をかぶりながら干された洗濯物、路上に散らかったごみや、流れ出している生活排水。本やテレビで見たことがあるような、「貧しい」町の様子でした。正直に言って、言葉を失いました。けれど、町の中を歩き進んでいく子どもたちの表情は明るかった、とても明るかった。いつまでも私たちの手を引いて、ずっと笑っていました。



子どもたちを幸せにするものはいったい何なのでしょう、物、時間、人、愛、祈り…。私は彼らとの出会いをいつまでも忘れず、日本から祈りを続けたいと思います。

藤原 実都 [奈良県小学校教諭]

このカンボジアでのスタディーツアーを通して、気づいたことが大きく2つあります。

1つ目は、貧しい子どもたちがいる現状です。例えば、家族が働いていなかったり、雨ざらしの家であったり、物がなかったりしていました。村の子どもた



ちは、鉛筆削りを始めて見たため、使い方がわかりませんでした。しかし、使い方が分かれると喜び、笑顔を見せてくれました。



2つ目は、子どもたちには可能性が溢れているということです。私が体育のボール遊びの授業をしているときに、ボールが学校にないため使い方を知らなくても、すぐにコツを覚え投げることができていました。

私は、このカンボジアでの経験を子どもたちに伝えていきたいと思います。また、カンボジアだけでなく日本にも貧しい子どもたちがいます。金銭面はもちろん、家族からの愛情を受けることができない子どももいます。その子どもたちに寄り添い続けられる教師でありたいです。

若林 美里 [城星学園小学校教諭]

この旅に参加する一年前、カンボジアへ旅行した際訪れた観光地で、現地の子どもたちとの出会いがありました。ペットボトルをボール代わり遊ぶ子どもたちと偶然すれ違ったのです。このボランティアを知ったとき、彼らのことを知るチャンスが訪れたのだと思いました。

カンボジアの子どもたちと遊び、授業で関わった結果分かったことがあります。それは、環境や文化の違いを除けば、カンボジアと日本の子どもたちに大きな違いはないという事です。競争には本気で取り組み、目が合うと屈託なく笑う。社会的に自立していくための支援を必要としているという点も同じでした。そして、実際に続いていく子どもたちの生活へ働きかける、具体的な支援の必要性を肌で感じる事も



出来ました。それは、物資を届けることに留まりません。少しでも彼らより便利な生活のある私たちが、現地に赴

カンボジア・ボランティア

いてこそできることだと思います。

カンボジアの子どもたちと出会って、勝手に『別の世界のこと』と思っていた彼らの生活がとても身近で、地続きであるということに気づかされました。

福田 友希 [城星学園中学高等学校教諭]

今回は初めてボランティアとしてカンボジアを訪れました。海外でボランティア活動すること自体も初めてでしたが、参加して本当によかったと思っています。

カンボジアで出会った子どもたちは、物がなくても自分たちで楽しさを見つけて何事にも取り組んでいて、私はそんな子どもたちの「生きる力」の強さを感じることができました。物があることが当たり前で



ないこと、自分の置かれている環境に感謝しなければならぬと、改めて考えさせられるきっかけになりました。

また、ポー村の小学校で授業ができたこともとても貴重な体験だったと思います。普段は中学生や高校生に教えているので、小学生と一緒に遊んだり、授業をしたりすることは私にとってはとても新鮮で、新しい考えや教え方を気づけるきっかけになりました。

カンボジアに行ってみよう!という気持ちでまず参加したこのツアーでしたが、ボランティアする中でいろいろな人と関わること、子どもたちと関わることの重要さを感じることができました。そこで学んだ愛のある関わり方をこれからも大事に過ごしていきたいと思いました。

須藤 美香 [目黒星美学園中学高等学校教諭]

カンボジアで出会った子供達の屈託のない笑顔が、今もまだ私の脳裏に焼き付いている。

日曜学校の帰り、夕日を見ながら子供達を家の近くまで送り届けた。裸足で嬉しそうに走り回り、やはり笑顔を絶やさなかったが、そんな彼らの住んでいる家を実際に見て、私は絶句した。

また、車で2時間かけて訪れた村では、「美味しいパンを食べられるのはクリスマスなどの特別な時だけ」という話を伺い、私は涙が溢れそうになった。私達にとって当たり前の事が、カンボジアでは全くそうではなかった。輝く笑顔の子供達が、こんなにも貧しい生活をしているとは想像もしなかった。「幸せ」と



は一体何なのか、私の頭は今もこの疑問でいっぱいである。

これから、あの子供達のために何ができるのか、考えるべき課題は尽きない。まずは、私が普段生活を共にする生徒達とカンボジアの現状を分かち合い、恵まれている日本の環境に感謝し、世界に目を向けられるように導いていきたい。

清久 真衣 [城星学園幼稚園教諭]

初めて訪れた村の子どもたちは、工夫をしながら遊びを見つけ、一点の曇りもない笑顔を見せてくれた。「遊ぼう!」という、積極的に話かけてくれ、新しいことをやってみようという意欲がとても伝わってきた。

折り紙の独楽で遊んでいると、村の先生から「私に作り方を教えてください。子どもたちと一緒に作ってみたいので覚えます。」と声をかけられた。いつでも子どもたちのことを考えている素敵な先生もいる。先生の存在の大切さを改めて考えるきっかけになった出来事だった。子どもたちを指導する先生を育てていくということ、これもまたボランティアなのだと。



また、物資(靴や鉛筆、鉛筆削り、歯ブラシなど)を渡してきたが、その際、使い方がわからず戸惑う子どもたちが多くいた。生活面の指導。それぞれの使い方を教えることから始めなければいけなかったと反省に残る。

カンボジアの中でも、村によって貧富の差があり、それぞれの状況に応じた教育を考えてボランティアに取り組んでいく必要があるのだと学ぶことができた。今後も自分にできることは何か?ということを考えながら過ごしていきたいと思う。

静岡VIDES便り



私達静岡VIDESは、発足時から静岡サレジオ学園と良好な関係を保ち「教育的見地から、青少年の健全な精神の育成を支援する」このドンボスコの教えの下、生徒参加型の環境を整えて来ました。

大西修道院長を中心に、今年から顧問に福塚氏(元静岡サレジオ理事長)を、アドバイザーにSr.望月(浜松修道院)をお迎えした新体制で会員10名と活動しています。

活動は、5月の「**上智大学・オールソフィアンフェスティバル**」へのボランティア参加活動から始まります。

これは、東京VIDES会員の山田真人さんのご好意により活動が実現しました。此処で得られたマラウイ共和国産コーヒー粉等の販売収益は、現地の学校へ通う貧しい子供達の給食費に充てられます。当日に参加する静岡サレジオの30名程の中高生達は、見たことも無い遠い国の子供達へ思いを馳せながらも活動意識を高めます。

次に、6月に「**サレジオ祭**」で活動します。以前は物品販売だけでしたが、ここ数年試行錯誤を繰り返し子供向けのワークショップを増やしました。紙バンドの手編み籠作りや、昆虫・恐竜のペーパークラフト、一輪挿し花瓶作り等幼稚園児からでも取り組み易い内容です。

また、東京VIDES皆様の提案により、今年からこのサレジオ祭両日に参加頂く事が実現しました。皆様には、静岡サレジオに協力頂き現在使用されていない静岡修道院の施設に宿泊する事から環境も整いました。事前に手作りした様々な色、石鹼や華やかで可愛いボールペを持参下さり、子供達に大人気で即完売と大成功の内に終わりました。

今年度からの新しい試みとして8月の夏休みを利用して、東京VIDES会員の方で星美学園・保育科に在籍する希望者を静岡サレジオ幼稚園の「**夏休み預かり保育**」を1週間実習体験して頂く活動を始めました。私達がサレジオ幼稚園と新しい繋がりを育み模索する中を石橋千佳さんと佐々木芽衣さんのお二人は、星美短大生・大使と言う志と勇気を持って参加していました。お二人は午前9時から午後6時頃迄自炊生活をしながら園児のお世話を熱心にされました。そのあと

12月のサレジオ幼稚園・クリスマス会の招待にも応じてくれました。互いの友好を深める事ができた事と思います。

10月は「**赤羽・星美彩見学ツアー**」としてサレジオ中高生(サーバントリーダーとフィリピン研修経験者、生徒会)の希望者を連れて1日姉妹校同士の親睦を深めます。文化祭での学びは新鮮で刺激が多く、星美学園・VIDESジュニアの方との交流会では笑顔が絶えず成果に手応えを感じます。

12月には「**静岡サレジオ・クリスマス会**」へ参加をして、全校の御父母へVIDESの概要と連綿と続く精神と静岡VIDESの活動内容について話し、共に働く協力を呼びかけます。会の終了後には、自主的に参加希望

した20名程の中高生と「**フィリピン就労支援**」への募金活動をし

ます。私達は少人数で身を寄せ合い、心ひとつにして静岡サレジオと共に活動を続けて来ました。ふとした心安からな時に、私達への協力者の皆様、各地にいらっしゃるシスター方、東京VIDESの皆様と様々な関係者方1人ひとりの顔が思い浮かびます。合わせて静岡サレジオ全教職員と事務局、心温かい御父母の皆様へ感謝をし、この先も子供達の健全な精神の成長を願いつつ、この環境作りに励みます。一つひとつの行いに誇りを持ち、サレジオファミリーの精神を持ち、皆様とわかちあって参ります。

VIDES静岡 副会長 萩原 滋昭



2019年 山中練成会

VIDES Youthは8/16～18の2泊3日で毎年恒例の山中練成会を行いました。
今年で4回目となった練成会は、今までの3年間を土台に、
Portaのメンバーが中心となり、自分たちで企画・運営を行いました。



今年は「幸せ」をテーマに置き、プログラムを通じて自分の幸せ、周りの幸せを考えました。

1日目は自己紹介とレクを通じて、普段関わりの少ないJuniorとYouthの交流を深めました。体を動かすレクや頭を使うレクなど、多様なレクで楽しみながら溶け合っていました。



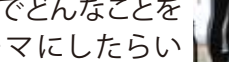
2日目からはメインのプログラム「幸せ」をテーマに置き、自分の幸せとみんなの幸せについて考えました。JuniorとYouthが混合になるように、3グループに分か

れてからプログラム開始です。まずは個人ワークとして、自らの幸福度、幸福を構成するものを考えました。そのあとグループで「幸せなまちづくり」として、みんなが幸せになれるまちとはどのようなものか意見を出し合いました。グループによって教育や自然、様々な視点が出てきて、とても良かったです。1日のまとめとして、最終ギャップを洗い出しながら、自分ができることは何かを考えました。そのなかで、Youthとしてできることはないかな、という具体的な取り組みを行うことになりました。



の中には、大学生になったらYouthに入って、練成会の企画・運営をしたいと言ってくれた高校生もいて、Youthのメンバーとしては感激しました。

今までの3年間は参加する側でしたが、今回初めて一から企画に挑戦する体験をしました。かなり前から準備を始めましたが、初めてのことでただでどんなことをテーマにしたらいいの、どのように



A photograph showing three women in a meeting room. They are gathered around a large whiteboard that displays a complex diagram with various colored boxes and connecting lines. One woman on the left is pointing at the board, while the other two look on attentively. The room has a modern feel with large windows in the background.



プログラムを進めたらいいのか、参加者が中学生から社会人までいる中でどのレベルをターゲットとしたらいいのか等、悩むことがたくさんあり、途中で投げ出したくなることもありました。しかし、無事に練成会が終わった時には、ホッとしたと同時に、プログラムの中での工夫点を参加者に評価してもらえたことがとても嬉しく思いました。練成会を通して、イベント企画・運営の難しさを感じましたが、Portaメンバーそれぞれが成長できたと思います。今後この経験を他のYouthの活動の中でも生かしていきたいです。

また、今回はVIDES KOREA (韓国) のメンバー6名も参加する予定で、おもてなしなどの準備を進めていましたが、残念ながら急遽不参加となりました。今後、別の機会に交流の場を持ち、この先も素敵に繋がってほしいと思います。



関係を築けたら嬉しく思います。



3日目には佐藤神父様と森下管区長様がいらっしゃり、ミサにあずかった後に、練成会を通しての振り返りを行いました。各自が練成会の中で何かしらの気づきを得て、今後の生活に生かしていきたいと振り返りました。Junior



VIDES

秋のスマイルフェスタ

2019年10月27日(日) in BIVIO

今年もVIDES Youthは10月27日にスマイルフェスタを行いました。今年は、NPO法人いろむすびcafeさんの「ハイハイあんだよース」やUNIQLOさんの「FMOお子様初めてのコーディネートファッションショー」などが行なわれ、私たちはそのお手伝いをしました。

VIDESとしては、MCの方との対話形式でVIDESの紹介を行いました。MCがお笑い芸人の方だったので楽しんでもらいながらVIDESを知ってもらう良い機会になったと思います。



今年初めての活動として、テントでポルタのハンドメイド作品の販売を行いました！星美学園の枠を出た外での販売に不安がありましたが、足を止めてくださるお客さまも多く、私たちも楽しんで参加することが出来ました。シスター方と一緒に販売していたこともあり、星美学園の卒業生や星美学園に縁のある方々が話しかけてくださる場面もありました。こうして地域に出ることで星美学園、そしてVIDES



を知ってもらう良い機会になっていると実感することができた出来事でした。

また、フェスタの様子を見に、日本に視察に来ていたSr.フィリスも足を運んで下さいました。そして、Sr.フィリスにはハンドメイド作品を紹介し、プレゼントいたしました。



スマイルフェスタの後はビビオの仮装コンテストが行われ、稲川シスターが審査員を務めました。様々な仮装の子どもたちの中から、VIDESではベビーカーまで可愛く装飾されたラプンツェルの仮装の女の子にVIDES賞として文房具のセットが渡されました。

今回で5年目となったスマイルフェスタですが、次回からは大きく変わります。これまでの歩みの中で、VIDESは主催から協賛へと立場は変わっていましたが、再びVIDES主催の行事として、VIDESメンバーの才能と人脈を生かしながら、VIDESそして、星美学園を地域の方々に知ってもらえるイベントにしていく方針で進めています。

VIDESが、また新たな形でスタートするフェスタに、是非みなさん足を運んでください!



ボスコベーカリースクールについて

2018年12月のカンボジア料理スタディツアーに参加させていただき、VIDESより1年間ボランティアとしての派遣というご縁をいただきました。1年間の滞在を通して感じたことをご報告させていただきます。

スタディツアーにて、『毎朝焼きたてのパンが食べられる幸せ』に感謝し過ごした一週間でしたが、長らく滞在していると、皆さんのご苦労と努力で成り立っているのがよくわかりました。

毎朝4時にパン職人さんが来ます。BoscoBakery Schoolの立ち上げからずっと頑張っているワタナと、その後に入ったスタッフのワニ、ルートの3人です。3人はとても仲が良く、仕事にもとても良いチームワークを保っています。



Boscoのパンは受注販売なので、約20件のレストランやカフェ、ホテルから注文のパンを毎朝焼きます。ホテルからの注文もだんだん増え、バターロールやフランスパンも人気です。朝の9時ごろには全て焼き上がり、配達に出かけます。配達はワタナが担当。バイクに配達用のカートをつけて毎日出かけます。集金も全て終わって帰ってくるのは13時ごろ。パン屋さんの長い1日が終わります。

しかし…こんなに頑張っているのに、なぜかそん

BBS、BICCに についてのご報告

1年間の活動を終えて
大和田多美恵

なに儲かってない???

理由はいろいろあります。ホテルの他に、アンコールマーケットというスーパーにパンを下ろしています。こちらはスーパーでその日に売れなかったパンは次の日に戻って来てしまいます。しかも、お支払いは4ヶ月に1回。こんな商売では大変に決まっていますが、「アンコールマーケットに行けばBoscoのパンが買えるよ」という「宣伝のため」と長年続けているそうです。

活動当初は様々な団体からのご寄付もあり、重機もご寄付いただきましたが、長年の使用で故障もあり、日本のメーカーへ部品を発注。ちょうど私が日本に帰るついででもあったので交換の部品を持ち帰りました。届いた交換の部品はカンボジアの技術者では設置できず、カンボジアでは最高級の技術者でも手におえず、結果、こちらにいる日本の会社に頼んだり、こう言った経費も大きく、利益を生むまではなかなか時間がかかります。

金銭の出入りも大雑把だったので、仕入れと利益をだいたい見てみたら赤字でした。日本人のように、こまかい計算が苦手なこともあります。はじめは皆さんからの暖かいご寄付からはじまったこともあり、なかなか経済的に自立をするまで持つて行くのは難しいようです。それでも、なんとか経営をしていくのは本当に大変なことだと感じました。

その後、経営についても話し合いました。なかなか利益を出せるまでの実現は難しいですが、パン職人さんたちが本当によく働いているので、なんとか頑張っ

て欲しいと思います。それでも、Boscoのパンは人気が高く、日本人や欧米人には人前で、顧客も少しですが増えつつあります。



BICCについて

毎週日曜日、月に3回教えに来てくださっている漆原恭子先生。

毎回楽しいプログラムを用意してくださり、子供達も大喜びです。

先生がいっしょと、まず、小聖堂でのお祈りから始まります。みんなで聖歌を歌い、お祈りをしてから授業が始まります。

恭子先生の授業は、毎回飽きないように思考をこらし、塗り絵をしたり、キャンディを入れた魚を釣る魚釣りゲームをしたり、楽しい授業です。

先生のアシスタントにサンデースクールのSaiとNqiがお手伝いをします。高校生の二人は、もうすっかり子供達の扱いに慣れて、まるで小さな先生みたいです。授業の最後には二人が紙芝居を読んであげたりします。そして、Boscoのパンをみんなでおよつに食べてお開きです。

月に1回だけアートスクールの先生が来ます。お絵かきも楽しんで学んでいるようです。



かに綺麗にしてプールに向かったのです。

VIDES会員の皆さま、赤羽星美学園・目黒星美学園、関係者の皆さまのお力添えをいただき、この活動が続けられているとおもいます。

皆さまのおかげさまで持ちまして、PO村の子供達は今ではわりと豊かに暮らせているようです。「知識」も「物資」も「人の愛情」も、どれが欠けてもできないことだと感じます。

どうぞ末永く見守ってくださいますよう、心よりお願い申し上げます。私もこれをご縁に、今後とも心寄り添って行けたらと思います。貴重な機会を与えていただき感謝申し上げます。